

館山地域集会

館山市議会での「館山運転区の廃止・移転計画反対決議」の採択となった。

館山地域集会は、館山市長、南房総市長、鋸南町長(助役代理出席)、館山観光協会会長、館山商工会議所会頭、多くの市議会議員、地域の労働組合などが参加する、文字通り地域総決起の画期的な集会となり、館山市議会への請願書には、動労千葉館山支部とともに、商工会議所、観光協会、旅館組合が名前を連ねた。



9・24館山地域集会

集会は、保守系の市長までが「公共性の非常に高い部分を民営化するのが本当にいいことだったのか、今にしてしっかり考えなければいけない。これは地域の切り捨てにつながっていく。それがまさに今全国的に発生している」と訴え、観光協会会長は「乗車人員が少ないからと切り捨てるなどんでもない話だ。われわれはこのままではとても食っていけない」と訴えるなど、民営化反対・JR弾劾集会となった。(日刊動労千葉 07年5月25日 No.6472)

「俺たちは地域全体の反対の代表して闘っている」と闘いの正当性に確信をもった。そうになったら労働者は強い。(p 48下)



路線の正当性

「格差社会」の矛盾は、若者と高齢者、そして地域に集中的に表れている。しかし、「これほどのものなのか」と、われわれ自身がまだ敏感になりきれていなかったことも痛感させられた。時代は本当に激変している。階級的な労働組合が軸になれば、どこからでも大反乱が起きる状況であることが、今回の基地廃止反対闘争のなかからも見えてきたのである。(日刊動労千葉 07年5月25日 No.6472)

【職場で闘いを起こそう】

■館山駅前街宣と区長抗議行動

すべての職場闘争はさしあたり少数(一人)から始まる。(俺鉄2 p 57上)

館山支部は昔からおとなしいところだったから、(区長に)なかなか言える人がいなかった。俺だって「この野郎！」なんてなかなか言えなかった。(p 100上 館山支部山田副部長)

「全員が必ず1回は参加して、抗議に行こう」と決めたことがあった。それで参加者が集まって、「いざ行くぞ」という瞬間に「よし、じゃあ行くべ」と言って後ろを見たら誰もいないんだよ(笑)でも一人がやっていたらそこから始まるからね。(p 100上 館山支部山田副部長)



管理者とけんかできる人、文句を言える人と言えない人は当然いる。それが廃止反対闘争の過程でみんなやれるようになった。(p 100下 館山支部山田副部長)



職場闘争がいいのは、やった人間はやることで吹っ切れるからね。

(p97下長田書記長)